

こぶし／モクレン科の落葉樹で、早春葉が出る前に白木蓮に似た六弁の花をつける。ほかの木の芽吹に先駆けて咲くので遠くからでも目立つ。「こぶし」とは、蕾の形が赤子のこぶしのようにみえることから。

らしく

自分らしく、
粹なくらし

特集

広島の魅力伝える熱い思い

広島が大好き。心を込めて広島の魅力伝える 観光アシスタントひろしま

残された遺産を守り、伝える てくてく中郡古道プロジェクト

楽しいを共有する新しいまち歩き ボランティアアシティガイドひととき

Hm助成支援団体の紹介／人材バンク 名人達人 宝人／知ってる？ 青少年の活動の場

らしくレポート・まちかど富士山のみつけかた展／らしくコラム・観光まちづくりは、まち自慢から／情報の森／プラザ通信



広島の魅力伝える熱い思い

広島は、魅力あふれる、数多くの観光名所を有しています。広島を訪れた人々に、より楽しみ、親しんでもらうために、熱心に活動している団体を紹介いたします。



▲「広島城」案内の様子

広島が大好き。 心を込めて広島魅力を伝える



観光アシスタントひろしま

<http://assistant-guide.net/>



▲会長の中森利夫さん

**広島が好きだからその役割
それがまちの活性化へ**

広島が大好きな人たちが、広島市への観光客を増やすことがまちの活性化に繋がると考えて、平成14年に発足したのが「広島市観光アシスタント協会」。その後平成23年に、現在の「観光アシスタントひろしま」へと改称しました。

現在2代目の会長として83人いるボランティアをまとめているのが、中森利夫さん。大の広島好きが高じて、平成20年に「ボランティア養成講座」を受講。それをきっかけに会に参加し、活動を続けられています。

「現在の会の大きな役割は、2つあります。1つ目は、広島市を訪れた人に観光案内をするボランティア活動。2つ目は、そのボランティア活動に関わってくれる観光アシスタントの人材育成です」と中森さんは語ってくれました。

追い求めるのは、満足感に溢れた観光客の笑顔

組織の立ち上げから4年後の平成18年から、名勝「縮景園」を皮切りに始めた観光案内は、現在2つのプロジェクトで展開。主となる縮景園案内は、登録している83人全てが交代で実施。ほぼ毎日メンバーが常駐する形で、園内を訪れた方々を案内して、その魅力を伝えていきます。またもうひとつの広域ガイド部門には32人が登録。こちらは、修学旅行生や一般観光客からの依頼に随時対応している他、広島市内のボランティアガイド団体が案内するまち歩きコース「広島とりっ歩（まち歩き観

次世代にバトンを渡すために

また、会のもう1つの大きな役割である人材育成。修学旅行生を含め旅行のハイシーズンには、「観光アシスタントひろしま」を含め、他のガイドボランティア団体もフル回転の状態になることが多く、せつかく広島市を訪れた観光客に旅の素敵な思い出を味わってもらうことができないことがあるため、会を結成した直後から「ボランティア養成講座」を開講。この5年間は、毎年開講しているそうです。

「講座は1回平均30人が受講。実際に案内する場所を回って知識を吸収してもらう他、ボラン

ティアとしての役割を学んでもらいます。受講後、約半数の人が登録してくれませんが、今の広島市を訪れる観光客数の推移を考えると、足りないのが実情です。また近年、外国人観光客数も増えており、英語を喋れる人材育成も課題です。他のボランティア団体で受け入れることができない観光客を、われわれが受け皿となつて対応しており、人材育成面においても先頭に立って取り組んでいかないと、広島の魅力がきちんと伝わりませんから」と中森さんは語ってくれました。

案内した観光客の笑顔を励みに、大好きな広島を案内する活動を続ける皆さん。皆さんの心を

▲ボランティア養成講座の様子（まちづくり市民交流プラザ）

光」で予約された、①三滝散策コース、②比治山散策コース、③広島城と縮景園散策コース、④世界平和記念聖堂と縮景園散策コース、この4つのコースの案内を行っています。「まち歩きの楽しみは、地元に住む人だからこそ知っていますね」。

るお宝的な情報を知ること。そのための適切な観光案内を、知識、マナー、表現力（伝達力）を持って、心を込めて行うことで、訪れた人たちに広島に来て良かった、また来たい、と感じてもらえることが、喜びですね」。



▲「三滝散策コース」案内の様子

らしく contents

Vol.41
辛夷号
2015.3

ページ 特集

1 広島の魅力伝える熱い思い
..... 観光アシスタントひろしま
..... てくてく中郡古道プロジェクト
..... ボランティアシティガイドひととき

5 支援団体の紹介
..... 鯉城の会
..... 森のようちえん まめとっこ
..... 湯来里山会

7 人材バンク 名人 達人 宝人
..... スリーコインズ 細川 洋子さん
..... カーブかたりべの会 大下 達也さん

9 知ってる? 青少年の活動の場

10 らしくレポート
..... まちかど富士山のみつけかた展
らしくコラム
..... 観光まちづくりは「まち自慢」から
..... 県立広島大学 経営情報学部 経営学科 和田 崇 准教授

11 情報の森
15 プラザ通信



表紙写真／縮景園での案内の様子

地元に住む人が“楽しい”と感じたひとときを共有することができる、新しいまち歩きを

ボランティアシティガイドひととき

http://www.k5.dion.ne.jp/~hitotoki/



▲ 秦野英子さん(左)、山根伍さん(中央)、山崎学さん(右)

自分たちのペースで、広島の魅力伝える

広島市を訪れる年間約1,000万人もの観光客。その人たちと二緒に、まちを歩き、共有するその「ひととき」を大切にしながら、まちの魅力や歴史、文化、おいしいものなどのガイドをする目的で、平成10年に結成されたのが「ボランティアシティガイドひととき」です。

「きっかけは平成9年に受講した広島市の未来大学の講座です。その中で、観光に関する講座に興味をもった者たちで、広島に住んでいるからこそ感じる広島の魅力をもっと知ってほしいの思いから結成されました」と語るのは山根伍さん。

主な活動である「まち歩き」は、メンバーそれぞれが得意とする、広島島の歴史や文化、風景などをテーマに散策コースを設定。平成26年は、雁木タクシーで縮景園を訪れたり、桜の季節には比治山公園を散策。

「まちを遊ぶ」それが基本。体験し、共有することが、楽しい思い出へ

現在6人のメンバーが自分たちのペースでゆったりと活動を続けています。毎月1回、中区平和大通り沿いの緑地帯の「カフェテラス倶楽部」の中で、定例会を開催。わきあいあいとした雰囲気の中で、広島の魅力について語り合うと同時に、年間6回、2カ月に1度の割合で開催している「まち歩き」の計画についても話し合っています。



▲ あなたの町の小さな旅へ「西国街道・本通り 今昔ぶらり旅」の様子



▲ 「宮島散歩：山辺の小道と厳島神社」の様子

さらに、広島駅周辺散策とマツダスタジアム見学。毎年恒例となっている、宮島散策と、宮島弥山登山などを行っています。そして実際に歩く中で、その場所の歴史について説明し、肌で感じてもらっています。

「まち歩きの参加者は、ホームページやFacebookを通じて募っています。リピーターも多いのですが、初めての方でも気軽に参加していただけますよ。あらかじめコースは設定しますが、実際は当日の参加者の人数構成などを見ながら調整しています。時には、予定外の場所に行くこともあり、参加者には喜んでいただいています。また通常のまち案内も大歓迎です。参加人数、目的ほかニーズに合わせて、コースや場所を選んでいきます。自然、歴史、風情、文化など魅力溢れる

広島に住むわれわれ自身が楽しんで、と思う場所や体験を、そのまま伝えるのが役割。一緒に、楽しいひとときを共有することが、一番大切だと思っています」と広報を務める秦野英子さんは語ります。

どのようにして、広島をまちを遊ぶか。メンバーが日々の暮らしの中で感じた事を、共有する形で体験し、楽しんでもらう。それが、広島の魅力伝える一番の手段と信じて、通常のガイドとは、ひと味違った活動をしている「ボランティアシティガイドひととき」の皆さん。自分たちが楽しいと思うことを体験してもらい共有する考え方は、新しいまち歩きの楽しみ方なのかもしれません。

戦国時代末期、人々が行き交った古道。歴史的遺産を守り、伝えることが地域の発展へ

てくてく中郡古道プロジェクト

歴史の足跡を保存し、後世に伝える役割を

天正17(1589)年に毛利輝元が家臣の井原氏(現在の安佐北区白木町に拠点)に命じて、吉田郡山城(現在の安芸高田市)から広島城築城のために資材の輸送や人の往来のための連絡道として整備させたのが「中郡道」です。現在も、安佐北区狩留家の三篠川沿い、JR芸備線と県道37号線と並行する形で、およそ50kmに渡ってこの中郡道や舟運道等の古道の痕跡や関連史跡を辿ることが出来ます。そこで、この歴史の足跡を保存し、後世に伝えることと、周辺地域のまちおこしを目的に、平成24年3月に「てくてく中郡古道プロジェクト」が結成されました。



▲ 実際に残る古道の痕跡「中郡道入口」



▲ 代表の黒川章男さん

「プロジェクトを立ち上げる前も、中郡古道について興味を持った方が散策に来られた時は、時間が許す限り由来などについて話をしています。しかしここ数年、中郡古道を訪れる人が飛躍的に増加し始めました。そこで、この場所に住むわれわれが中心となり、残された遺産の価値をもっと知ってもらうことで、地域の発展、まちおこしに繋がってほしいと願いを込めてプロジェクトを立ち上げました」と代表の黒川章男さんは語ります。

歴史的遺産を活用してまちの活性化に取り組み

プロジェクトには、井原落合間の住民が中心となり約150人が参加。活動は、中郡古道の名所を記した「中郡古道散策地図」を作成し公民館等で配布したり、中郡古道を散策する「エコツーリズム」を年に4回程度開催しています。この「エコツーリズム」には、1回あたり約80人が参加。それ以外にも



▲ 梨峠よりくだり



▲ 中郡三田境

個別に来る人を含めると年間約1,000人近くもの人がこの中郡古道を訪れるほどの賑わいを見せています。メンバーはそれぞれのスケジュールに応じてナビゲーターとして来訪者をサポート。また中郡古道を知ってもらう取り組みとして、フォトコンテストや講演会を開いています。

さらに平成26年6月には、国土交通省中国地方整備局が歴史や文化を今に伝える、中国地方の街道を認定する「夢街道ルネサンス」に認定され、今後ますます多くの人が訪れると予想されます。

「当時の趣を、ありのままのばせてくれる古道の面影は、生活の息吹さえ聞こえてきそうな雰囲気があります。今後も、「エコツーリズム」やフォトコンテスト、講演会などを継続的に開催していきたいです。さらには、史跡の詳細を記した看板や道標などの整備に取り組み、訪れる人たちが分かりやすく、安心安全に散策してもらえよう道路整備なども進めていきたいです。また街道沿いの地域と共同で中郡古道の特産品などを作ることも考えています。皆さんに自然に触れながら、ゆっくりと散策することで、歴史の息吹を感じて欲しいです」と黒川さんは語ってくれました。

精力的に活動続ける黒川さんとメンバーの皆さん。先祖が築きあげた遺産を大切に、後世に伝えるために取り組むひたむきな情熱を感じました。



▲ 5つのエリアで構成されている「中郡古道散策地図」